



漢方の  
基礎と臨床  
産婦人科症例で学ぶ  
Part  
02  
産婦人科における  
漢方薬の使い方  
著者 黄龍、小嶋一朗氏



# 婦人科常用漢方の解説

黄 龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

# 一、女性は血を以て本とする

## 女子以血為本、婦人病は血の病

- ① 初潮を迎え、周期的月経。
  - ② 妊娠すると血流の豊富な胎盤を通じて胎児に栄養を与える。
  - ③ 出産、産後の出血、悪露など。
  - ④ 授乳（乳汁は血が化生したもの）。
- 女性の一生は血の状態に支配されている。

## 二、四物湯の解説

### (一) 組成と効能

#### 四物湯 《和剤局方》

四物湯は当帰、川芎、芍薬、熟地黄の四つ生薬から組成した、血虚で体が血の栄養と潤いがなくなった、血行がよくない病態に使う方剤で、婦人科疾患を治療する方剤の基本ベースに、補血調血行滞する「治血の要剤」になっている。

組 成	当帰、川芎、白芍薬、熟地黄
効 能	補血調血
主 治	血虚血滞証

# 出典

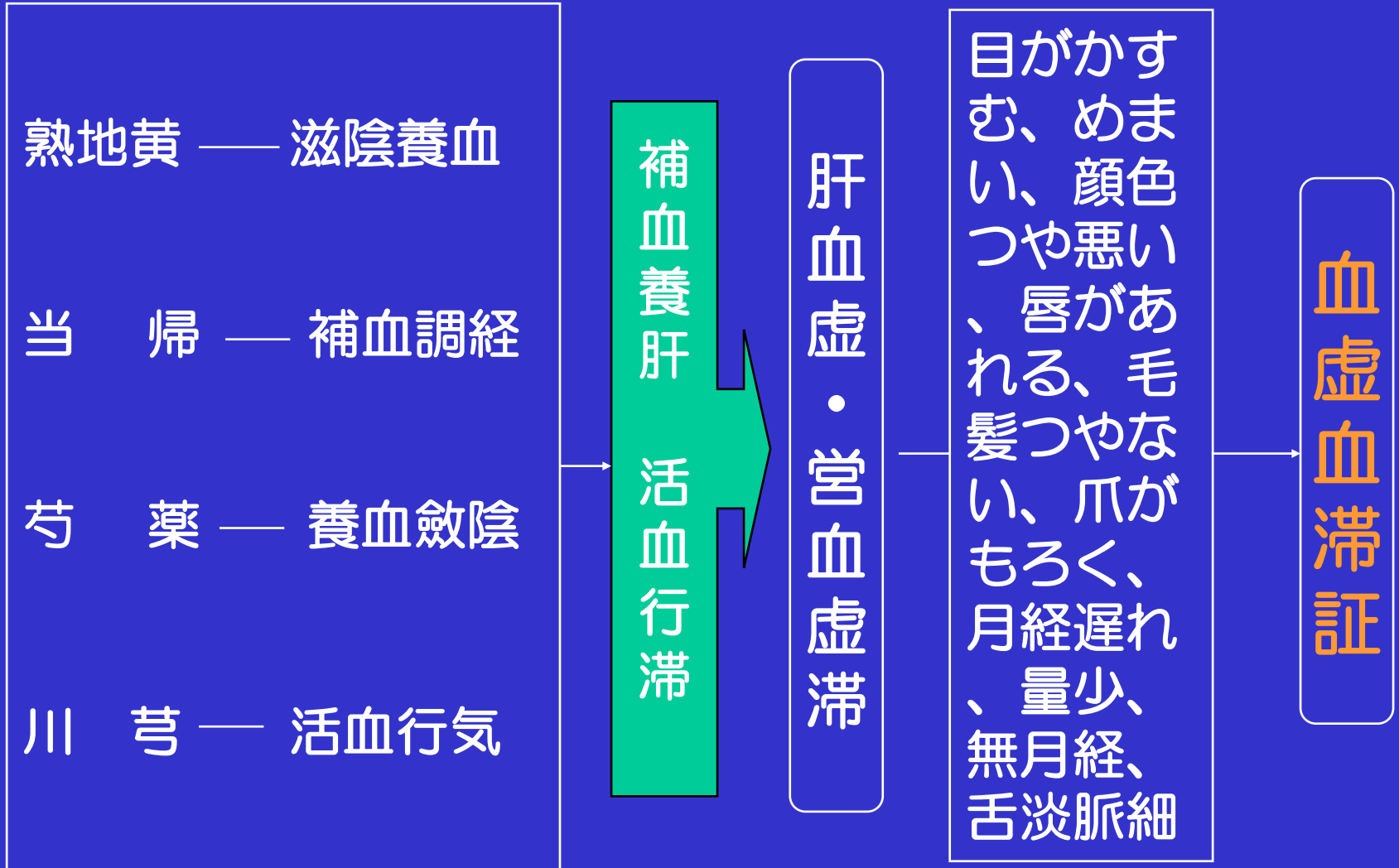
『和劑局方』

「調益榮衛，滋養氣血。治衝任虛損，月水不調，臍腹口㗝痛，崩中漏下，血瘕塊硬，癸歇疼痛，妊娠宿冷，將理失宜，胎動不安，血下不止，及產後乘虛，風寒內搏，惡露生瘕聚，少腹堅痛，時作寒熱」 卷之九 治婦人諸疾

## • (二) 処方解説

- 本方は甘温の熟地黄が主薬で、補血養陰、滋補肝腎し、辛・甘温の当帰は補血活血、調経し、臣薬である、酸・微寒の芍薬は斂陰補血柔肝に働き、佐薬である。辛温の川芎は、血中の気を理し、活血行滞し、使薬である。全方は、血分薬からなり、補血して滞らせず、行血して破血せず、補の中に、行散があり、行散の中に、収斂があり、補血、調血、行滞する、治血の要剤になる。

# 四物湯の構成と効能



### (三) 主 治

肝血虚、血滞で、疲労感、顔色が悪くつやがない、皮膚がカサカサ潤いがない、目がかすむ、立ちくらみ、頭がボーッとする、唇があれ、毛髪つやない、動悸、四肢のしびれ、爪がもろく、女性では月経遅れ、経血量が少ない、無月経、舌淡脈細。

## (四) 応用ポイント

**血虚失潤**：目がかすむ、めまい、頭がボーッとする、顔色が悪くつやがない、口唇があれる、毛髪つやない、爪がもろく、皮膚乾燥、手足のしびれなど。

**衝任虚損**：月経量の減少、月経遅れ、周期延長、無月経が見られ、血脈が虚滞しやすく、時に腹痛が生じたり、脈が細澁を呈する。



## (五) 臨床応用

血虚血滞で皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で、産後あるいは流産後の疲労回復、月経不順、冷え症、しもやけ、しみ、血の道症

- ・**婦人科**：卵巣機能不全、産後・流産後の体力低下、不妊症、更年期障害、帯下、月経痛、過多月経、血の道症、貧血症、冷え症など
- ・**循環器**：低血圧症、高血圧症、下肢運動麻痺、脳溢血、血栓性静脈炎など
- ・**皮膚科**：皮膚乾燥、シミ肝斑、凍瘡、アトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚掻痒症、尋常性乾癬、進行性手掌角化症など
- ・**その他**：目がかすむ、白髪、抜け毛、爪あれる、

## (六) 使用注意点

著しく胃腸の虚弱な患者、食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等に慎重投与すること。

## 三、加味逍遙散の解説

### (一) 組成と効能

#### 加味逍遙散 《内科摘要》

加味逍遙散は疏肝健脾の逍遙散に血熱を涼し心肝の火を瀉する牡丹皮と三焦の火を瀉し導熱下行する山梔子を加えて、組成された疏肝健脾、和血調経、清熱瀉火の方剤である。

組 成	柴胡、当帰、芍薬、白朮、茯苓、炙甘草、煨姜、薄荷、牡丹皮、山梔子
効 能	疏肝健脾、和血調経、清熱瀉火
主 治	肝鬱血虚化火

# 原 典

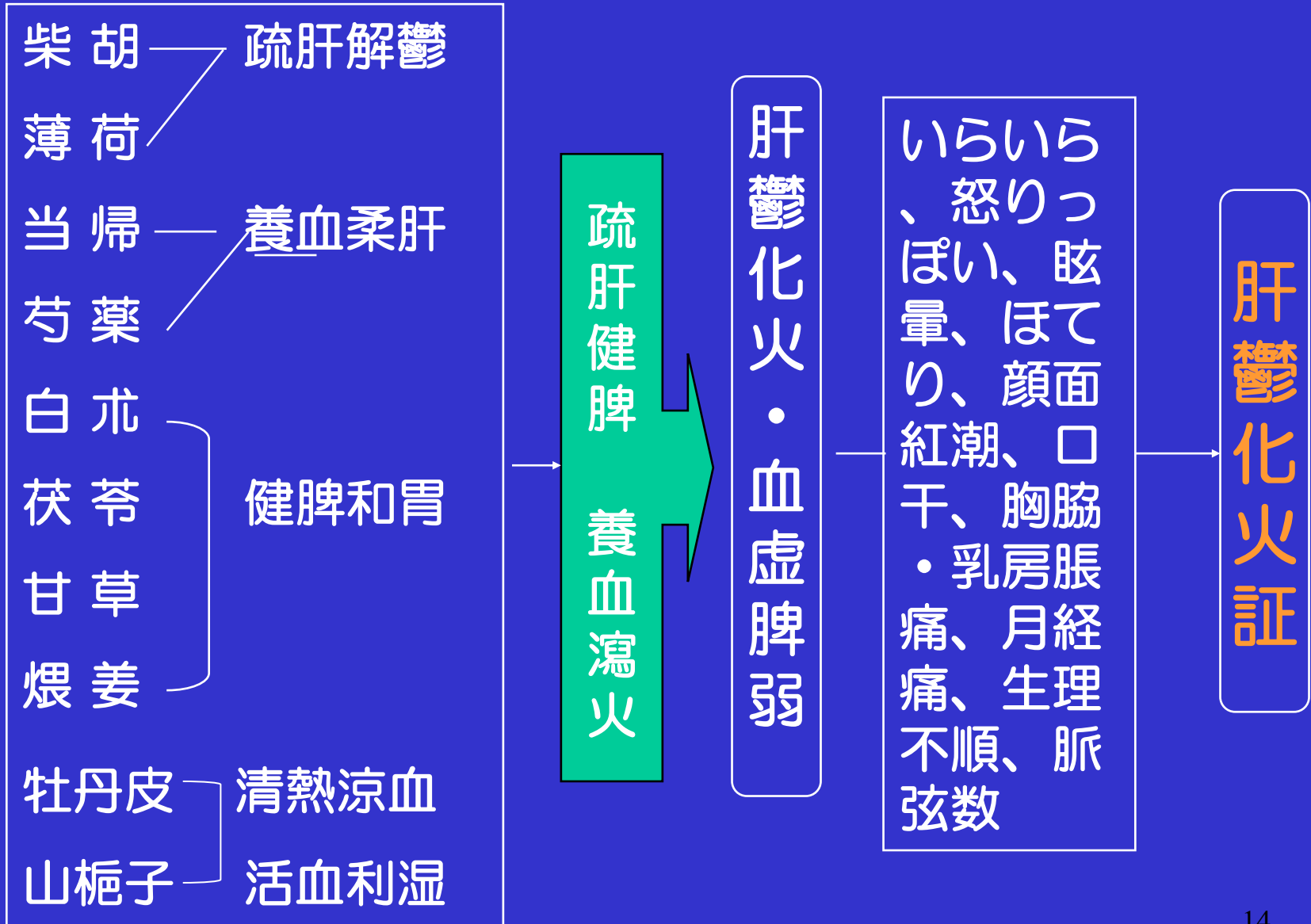
## 《和劑局方・卷之九・治婦人諸疾篇》

「逍遙散、治血虚劳倦、五心煩熱、肢体疼痛、頭目昏重、心悸頰赤、口燥咽乾、癆熱盜汗、減食嗜卧、及血熱相搏、月水不調、臍腹脹痛、寒熱虐の如くなるを治す」。

## • (二) 処方解説

- 本方は疏肝解鬱の柴胡が主薬で、鬱滞した肝気疎通し、条達させ。牡丹皮が血熱を清し心肝の火を瀉す、山梔子が三焦の火を瀉し導熱下行する、少量の薄荷が疏散条達の効能を強める、三薬が柴胡の疏肝清熱を補助して、臣薬である。養血活血の当帰と養血斂陰の芍薬は、肝の陰血を補充して柔肝し疏泄を調整する。健脾益気の白朮、茯苓、煨姜は脾運を高め、気血生化の源を益し、佐薬である。炙甘草は調和諸薬、使薬である。全方で、疏肝清熱、健脾養血の効能である。

# 加味逍遙散の構成と効能



### (三) 主 治

憂鬱、倦怠感、胸脇乳房が脹って痛む、イライラ、怒りっぽい、ほてり、顔面紅潮、口乾、頭痛、めまい、のぼせ、食欲不振、自汗、寝汗、少腹脹痛、月経不順、月経前症候群、更年期障害、脈が弦数など。

## (四) 応用ポイント

**肝鬱血虚**：倦怠感、イライラ、ため息、皮膚につやがない、手足のしびれ、筋けいれん、目が疲れる、動悸、月経不順、月経困難、更年期障害など。

**肝鬱化火**：イライラ、怒りっぽい、のぼせ、眩暈、顔面紅潮、口乾苦、脈弦数。

**肝脾不和**：胸脇が脹って痛む、イライラ、怒りっぽい、ため息、食欲不振、腹部膨満感、腹痛、腸鳴、軟便や下痢、舌苔白膩。



## (五) 臨床応用

肝鬱血虚化火によって生じた怒りっぽい、のぼせ、ほてり、口渇、頭痛、微熱、寝汗或は出血などの熱症を伴うもの

- ・ **婦人科**：不定愁訴、更年期障害、月経不順、月経困難症、月経前症候群、子宮内膜炎、子宮筋腫、乳腺炎など
- ・ **精神科**：抑うつ、不眠症、自律神経失調症、神経症など精神神経症状（両脇が脹って痛む、憂鬱感、イライラなどを伴う）
- ・ **消化器**：神経性胃腸炎、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群（IBS）など
- ・ **肝胆疾患**：慢性肝炎、黄疸、胆嚢炎、慢性膵臓炎など

## (六) 使用注意点

- ・脾胃虚寒、脘腹冷痛、大便溏瀉の患者には慎重投与すること。

## 四、桂枝茯苓丸の解説

### (一) 組成と効能

#### 桂枝茯苓丸 《金匱要略》

桂枝茯苓丸は温通経脈、活血、化瘀、消癥の効能で、瘀血を改善する代表方剤である。

組 成	桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、赤芍
効 能	活血化瘀、緩消癥塊
主 治	血瘀、癥塊

# 原 典

## 《金匱要略・婦人妊娠病脈証并治第二十》

婦人宿癥病有り、經断ちて未だ三月に及ばず、漏下を得て止まず。胎動臍上の在る者は、癥瘕妊娠を害すと為す。(中略)血止らざる所以の者は、その癥を下すべし。桂枝茯苓丸之を主る。

## (二) 処方解説

- 本方に辛温の桂枝は、血脈を温通して血瘀水湿を行らせ、淡滲の茯苓は湿滯を下降させる、活血化瘀の牡丹皮、桃仁、赤芍は、瘀血を除くとともに瘀熱を清する。全体で瘀血、湿滯を除き、血脈を通利し、癥塊を緩消する。血瘀による月経異常、胞宮内留滯に対しても、活血化瘀、通滯によって、効果をあらわす。

# 桂枝茯苓丸の構成と効能

- 桂 枝 — 温通経脈
- 茯 苓 — 利湿健脾
- 赤 芍 — 清熱散瘀
- 桃 仁 — 活血祛瘀
- 牡丹皮 — 清熱活血

活血化瘀  
・  
緩消癥塊

血瘀  
・  
癥塊

下腹部の腫瘍、圧痛、腹の引き攣り、或は月経痛、不正性器出血、無月経、難産、胎盤残留、死胎残留、悪露停滞、脈澁など

血瘀腫瘍

### (三) 主 治

血瘀による下腹部の圧痛、腫瘤、月経不順、月経痛、月経困難、月経異常、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、冷えのぼせ、静脈の怒張、皮膚につやがない、顔色がどす黒い、舌瘀斑、瘀点、舌下静脈怒張、渋脈

## (四) 応用ポイント

**瘀血気滞**：固定性疼痛、月経不順、月経痛、月経困難、月経異常、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打撲症、しもやけ、しみ、冷えのぼせ、静脈の怒張、皮膚につやがない、顔色がどす黒いなど。

**瘀血癥塊**：腫瘤、腫塊（腫瘍、筋腫）、子宮筋腫、痔核など

**瘀血舌脈**：舌質が暗紫色・瘀斑・瘀点及び舌下静脈怒張、脈は澁である。



## (五) 臨床応用

瘀血によって生じる疼痛・腫れ・腫瘤・出血・冷えなどの症状に、婦人科疾患を始め、男女・疾患・年齢を問わず広く用いられている。

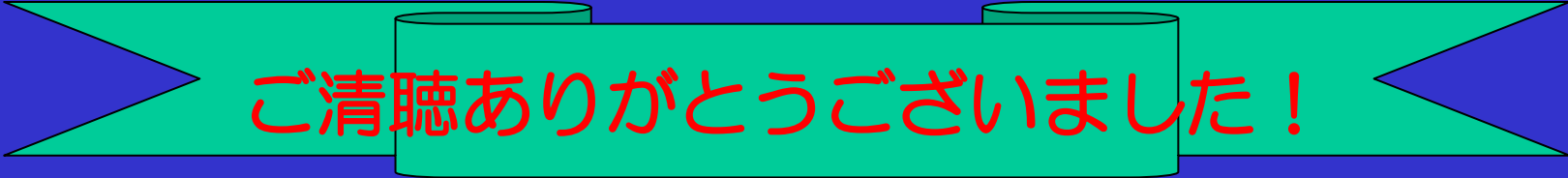
■**婦人科**：子宮筋腫、子宮内膜症、月経痛、月経不順、無月経、子宮内膜炎、子宮付属器炎、卵巣嚢腫、産後の腹痛、不正性器出血、不妊症、更年期障害など。

■**内科**：慢性腎炎・慢性肝炎・肝硬変・クモ状血管腫、慢性腹膜炎、動脈硬化、下肢静脈瘤、冷え症、頭痛など。

■**その他** 肩こり、めまい、前立腺肥大、痔核、打撲症、腰痛、にきび、アレルギー性皮膚炎、慢性湿疹など

## (六) 使用注意点

妊婦や妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。



ご清聴ありがとうございました！